

社会科学学習指導案

千葉市教育研究会社会科研究主題

新たな社会の担い手として生きる力を育む社会科学学習

～児童生徒が社会的な見方・考え方を働かせる問題解決的な学習を通して～



社会科学学習指導案

1 小単元名 江戸幕府と政治の安定

2 小単元について

本小単元は、学習指導要領 6 学年の内容（2）のア（キ）「江戸幕府の始まり、江戸時代の始まり、参勤交代や鎖国など幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したこと」を受けて扱うものである。

前小単元では、戦国の世が統一されていく様子を織田信長や豊臣秀吉の人物の働きを中心に学習した。本小単元では、江戸幕府によるさまざまな政策と身分制を手掛かりとして、武士による政治が安定したことが理解できるようにすることをねらいとする。江戸幕府がなぜ 250 年以上もの長い間安定したのかを理解するためには、江戸幕府のさまざまな政策を理解する必要がある。江戸幕府の主な政策には、武家諸法度の制定や参勤交代、鎖国などがある。そこで児童には江戸幕府が大名の配置を工夫することによって政治を安定させたこと、参勤交代では、大名が 1 年おきに将軍の下で服従の態度を示すことを義務づけられた意味を考えられるようにさせたい。また、身分制度については、人々が身分に応じてどのようにくらしていたのかを重点的に考えられるようにし、鎖国についてはキリスト教が禁止されたことの意味と合わせて、鎖国のもとにおける我が国と外国との関係について捉えられるようにしたい。

本学級の児童は、活動や課題に黙々と取り組むことができる。一方で、失敗を恐れる雰囲気が根強くあるため一斉指導の場で活発に意見交換をしたり自由な発想で考えたりすることが苦手である。学習中は、2～6 人程度の小グループではよく発言することができるが、一斉指導の場では数名しか発表しようとしなない。また、学習の流れに沿って学習は進められるが、主体的・意欲的に進められる子は少ない。また、これまでの社会科の学習の中で、児童自ら学習問題考えたり、学習計画を立てたりすることに苦手意識があったようである。このような実態を踏まえ、自分の考えや知りたいことをしっかりとめさせて主体的に学習に取り組む児童を育て、「社会科の学習において、児童自ら学習問題を設定し、追究する姿」を目指したい。

本小単元では、「つかむ」の学習過程では、興味・関心を高め、児童自らが主体的に学習問題や学習計画を立てられるようにする。織田信長や豊臣秀吉が政権を握っていた年数と、江戸幕府が政権を握っていた年数とを棒グラフで提示し、視覚的に政権の長さを捉えさせる。児童は「なぜ、250 年以上も幕府が続いたのだろうか。」という疑問をもち、学習問題を設定することができるだろう。学習計画を立てる際には、前小単元までの学習を生かし、政策に着目して予想を立て、Jamboard の付箋を使って、児童の予想を書き出しグループで共有していく。そうすることで、児童自らが学習計画を立てることができるであろう。「調べる」の学習過程では、参勤交代の図や地図、年表などの資料から幕府の政策について読み取る活動を行い、政治を安定させるための江戸幕府が行った政策の意図や社会の様子を捉えさせていきたい。「まとめる」の学習では、江戸幕府の政治に対する思いを、それぞれの立場から考えていく。児童がそれぞれ調べて学習したこと年表や文などにまとめさせ、お互いに発表し合うなかで、社会事象を多角的に捉え、学びを深めていく。このように、児童自ら学習問題や学習計画を立てていくことで、小単元を通して主体的に学習に取り組むことが期待されるとともに、幕府体制の安定につながったことを理解することで、歴史学習への関心を高めこれらの事象を関連付けたり統合したりする力を育んでいきたい。

3 児童の実態＜アンケートを元にした考察＞

本学級は、「自分の考えを話すことや発表することに、苦手意識や抵抗感をもっている子が多い」という結果が見られた。発表や自分の考えを伝えるという重要性は認識しているが、発表する際に話す内容がわからないからと考察される。そこで、その児童が好きなことや興味があることを発表することで発表への抵抗感を減らしたい。

多くの児童が歴史学習に対して興味を示していることが分かった。一方、調べる内容が多いことや、用語を覚えることが多いために抵抗感をもつ児童が多いことも考察される。前時、前小単元の学習から調べる際の視点を提示することで調べ学習の手立てとしたい。

わからない問題に取り組む際に、友達と考えたことを共有することで解決しようとする児童が多いことがわかった。ここから、小グループで話し合うことによって、自分の考えをもつことができるのではないかと考察する。したがって、小グループで考えを共有し、友達の意見や考えを自分と比較することで、自分の考えをより確かなものにさせたい。

社会科の学習で「絵や写真から新しい疑問をもつこと」が好きな児童が多いことがわかった。一方で、「予想や学習計画を立てる」や「学習問題を立てる」ことに対しては、あまり好きではないことが分かる。問題解決的な学習には、児童自ら学習問題を設定し、追究することが必要とされている。そこで本小単元では、「つかむ」の学習で興味・関心をもたせ、学習問題や学習計画を立てさせたい。

江戸時代のものとして認知されているものは徳川家康、坂本龍馬、伊能忠敬などの他教科で触れることがあった人物や、現代まで続く伝統文化と関係あるものが多かった。また時代のとらえとしては児童が根拠なく想像するような単語が多く見られたため、用語や語句を確認しながら学習を進めたい。

4 知識の構造図

中心概念
(概念知識)

徳川家康が開いた江戸幕府は、武家諸法度により大名を統制し、参勤交代の制度や外交のあり方をさだめて将軍権力を確立し、身分制に基づいて、武士による安定した政治を行うようになった。

⑦

まとめる

徳川家康は関ヶ原の戦いに勝って全国支配を確かなものにし、征夷大將軍に任じられ、江戸に幕府を開いた。

①

・徳川家康・征夷大將軍
・江戸幕府

江戸幕府は、全国の大名配置を工夫して、のちに豊臣氏を滅ぼし、戦いの無い安定した世の中をもたらしした。

②

・親藩・譜代・外様
・一国一城令・御成街道
・里見氏

江戸幕府は武家諸法度によって大名を統制し、日光東照宮や江戸城を整備して権力を確立した。

③

・武家諸法度
・日光東照宮
・江戸城

江戸幕府は、参勤交代の制度を定めて全国の大名を交代で江戸の屋敷に住まわせ、服属させることで権力を安定させた。

④

・参勤交代
・大名
・五街道

江戸幕府は、全国の人々や武士や百姓、町人などの身分として位置付け、くらしにみあった負担をさせた。

⑤

・身分
・城下町と町人
・村と百姓

江戸幕府はキリスト教を厳しく取り締まり、貿易船の出入りを制限することによって、貿易を独占した。

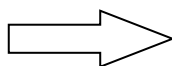
⑥

・キリスト教の禁止
・島原・天草一揆
・鎖国

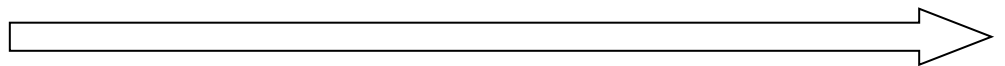
社会的事象
(具体的知識)

用語・語句

問題解決的な学習過程



つかむ



調べる

5 小単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、文化財や地図、年表などの資料で調べ、江戸幕府の政策の意図や社会の様子を考え、表現することを通して、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国など幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

6 評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
① 世の中の様子、人の働きや代表的文化遺産について、文化財や地図、年表などの資料で調べ、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を理解している。	② 世の中の様子、人物の働きや文化遺産などに着目して、問いを見だし、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制について考え表現している。	① 江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制度について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
② 調べたことを年表や文などにまとめ、武士による政治が安定したことを理解している。	③ 江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を関連付けたり総合したりして、江戸幕府の政策の意図や社会の様子を考え、適切に表現している。	

7 単元の指導計画

過程	時間	主な学習活動と内容
つかむ	1 本時	○ 関ヶ原の戦いで徳川家康が勝ったことを知り、家康が今後何をしたのかを予想する。 ・幕府を開いたのではないか。 ・大名や武士たちの決まりを作ったのではないか。 ○ 織田、豊臣政権と比べ、250年以上続いたことを棒グラフから知る。 ・とても長い間、江戸幕府は続いたんだね。 ・どうしてこんなに長く続いたのかな。 ○ 出された疑問をもとに、学習問題をつくる。 学習問題 江戸幕府はどのような政策で、長い間全国を治めたのだろう。 ○ なぜ、江戸幕府が長く続いたのかを付箋に書き出し、学習問題の予想をする。 ・関東には、親藩譜代が多いから、力をもった大名を遠くの土地に置いて、影響力を弱めた。 ・この時、農民の生活を変えて、たくさん年貢を納めさせた。 ・幕府の命令に従わなくなるからキリスト教を禁止にした。 ○ 書いた付箋をもとに、グループで項目ごと分けさせる。 ・大名への政策 ・民衆への政策 ・外国のかかわり ○ 各グループで出た項目を全体で共有し学習計画をつくる。

調 べ る	2	○ 江戸幕府が大名をどのように配置し、どのような場所を直接支配したのか調べ、話し合う。 ・ 外様大名がすぐに江戸を攻められないように工夫して配置している。 ・ 主な鉱山や都市は幕府が直接支配している。
	3	○ 徳川家光がどのようにして江戸幕府を受け継ぎ、権力を確立したか調べ、話し合う。 ・ 日光東照宮は家光の権力を大名たちに見せつけるうえで大きな役割を果たした。 ・ 家光は江戸城と江戸の町を大幅に改修し、天下にふさわしい城下町を作った。 ・ 家康から家光のころの間、武家諸法度に反したなどの理由で、全国の多くの大名がとりつぶされ、将軍の力はますます強くなった。
	4	○ 江戸幕府が全国の大名を従えるために、どのような仕組みを整えたのかを調べ、話し合う。 ・ 家光が将軍のころ、参勤交代の制度が整えられた。 ・ 大名にとって、江戸での生活は多くの費用がかかった。
	5	○ 江戸時代の人々が身分に応じてどのようにくらしていたかを調べ、話し合う。 ・ 江戸時代の社会は、様々な身分の人々によって構成されている。 ・ 武士や町人城下町に集められ、身分によって住む場所が決められた。 ・ 江戸時代の人口の 80%以上は、百姓でしめられていた。 ・ 他にも、皇族、公家、宗教者、芸能者など、さまざまな身分が見られた。また、厳しく差別された身分の人々がいた。
	6	○ 江戸幕府が、どのようにキリスト教を禁止していったのか調べて話し合う。 ・ 幕府は初めのころ、外国との貿易をさかんにしようとしてきたが、キリスト教信者が増え、幕府の命令に従わなくなることを心配して、キリスト教を禁止するようになった。 ・ 幕府はキリスト教を徹底して排除するとともに、海外貿易の利益を独占した。
ま と め る	7	○ 江戸幕府が政治を安定させるために、人々に対して行ったことを整理する。 ○ 江戸幕府の政治について、人々がどう思ったかを考える。 まとめ 徳川家康が開いた江戸幕府は、武家諸法度により大名を統制し、参勤交代の制度や外交のあり方をさだめて将軍権力を確立し、身分制に基づいて、武士による安定した政治を行うようになった。

8 市教研社会科研究主題解明のための方策

新たな社会の担い手として生きる力を育む社会科学学習
～児童生徒が社会的な見方・考え方を働かせる問題解決的な学習を通して～

＜本年度主題解明のための方策＞

研究内容 1 問題解決的な学習につながる教材・単元構成の工夫

研究内容 2 問題解決的な学習につながる指導法の工夫

研究内容 3 指導と教科の一体化

○前単元とつながりを意識し、児童が問いをもつための「つかむ」時間

本単元では、織田・豊臣と徳川が政権を担った江戸幕府の年数を提示し、児童が問いをもてるようにする。織田・豊臣政権と江戸幕府を比べると、200 年以上の差がある。その長さを棒グラフで提示し、前小単元で学習した大名と江戸幕府を比較することで、児童は江戸幕府が長く続いた理由について疑問をもち、単元を貫く学習問題を立てることができる考える。

また前小単元では、織田信長・豊臣秀吉が行った政策について、「大名」「民衆」「外交」という視点から学習をしてきた。そこで本単元では、織田・豊臣の政策を振り返りながら学習を進めるようにする。児童は、織田・豊臣のとった政策をもとに予想することで、江戸幕府のとった政策についても見通しをもつことができる考える。

織田・豊臣と江戸幕府の年数を比較することで、児童は江戸幕府の政策について問いをもち、それをもとに学習問題を考えることができるだろう。また、前小単元とのつながりを意識することで、『「大名」「民衆」「外交」面での工夫をしたのではないか』という見通しをもって学習をすることができる考えた。

研究内容 2 問題解決的な学習につながる指導法の工夫

○前単元とのつながりを意識し、根拠をもって予想を考えるための掲示物

前小単元では、織田信長・豊臣秀吉が行った政策について、「民衆」「大名」「外交」という視点から学習をしてきた。その既習事項についてまとめた資料を掲示し、本単元とのつながりを意識しながら学習を進めるようにする。そうすることで、「単元を貫く学習問題」に対する予想を、江戸幕府の行った政策に着目し考えることができるだろう。前小単元とのつながりを意識することで、これまでに身に付けた視点を根拠として、児童は予想をすることができる考える。

○調べることを分類し、学習の見通しをもつための I C T の活用

「単元を貫く学習問題」に対する予想を考える際、Google Jamboard の付箋機能を使って書くようにする。自分の考えを表現することに抵抗がある児童も、付箋機能を使い友達の考えを参考にしながら予想することで、自信をもって学習に取り組むことができる考える。

また Jamboard は、付箋を移動したり、まとめたりすることが容易に行える。よって、児童が調べる項目ごとに分類をしやすいと考える。そうすることで、児童は学習の見通しをもつことができ、学習計画を考えることができるだろう。

9 本時の指導

(1) 本時の目標

○江戸幕府が250年以上続いたことから問いを見出し、自分なりの予想をもとに課題解決の見通しをもつ

(学びに向かう力、人間性等)

(2) 展開 (1 / 7)

時間	学習活動と内容	○教師の支援 ◆評価(評価方法)	資料
3分	1 織豊政権の内容を振り返る。	○前時までの学習内容をまとめた掲示物を用いて政策を振り返ることで、江戸幕府も支配をするための政策をとっていたことに気付けるようにする。	・織田・豊臣の政策をまとめた表
2分	2 本時のめあてを確認する。		
	単元をつらぬく学習問題を考え、学習計画を立てよう。		
5分	3 関ヶ原の戦いの、徳川家康が勝ったことを知り、家康が今後何をするのかを予想する。 ・幕府を開いたのではないか。 ・大名や武士たちの決まりを作った。	○関ヶ原の戦いに勝利したことを確認し、豊臣秀吉の後、徳川家康が権力を握っていたことを理解できるようにする。	・関ヶ原合戦図屏風
5分	4 織田豊臣政権と比べ、250年以上続いたことを棒グラフやから、室町幕府の将軍の数とも比較して生まれた疑問から単元を貫く学習問題を立てる。 ・とても長い間、江戸幕府は続いたのか。 ・どうしてこんなに長く続いたのかな。	○江戸幕府以前の年数や将軍数を比較することから、以前の政権との違いに気付く、疑問をもてるようにする。	・織田政権、豊臣政権、江戸幕府の年数別棒グラフ
	江戸幕府はどのような政策で、長い間全国を治めたのだろう。		
15分	5 学習問題に対する予想を立て、項目ごとに分類する。 ・織田・豊臣と同じように何か支配するきまりを作ったのではないか。 ・大名を支配するきまりを作ったのではないか。 ・民衆のためのしくみを作ったのではないか。 ・外国とも貿易をして、力を強めていったのではないか。	○Google Jamboardの付箋機能を使って予想を打ち込むことで、他の児童の意見を参考にしながら予想を考えられるようにする。 ○予想が立てられない児童には、織田・豊臣の政策を振り返るように声を掛け、「大名」「民衆」「外交」などに対する政策を考えられるようにする。 ◆これまでの学習をもとに、学習問題に対する自分なりの予想を立て、課題解決の見通しをもっている。(GoogleJamboard)【主体的に取り組む態度】	

10 分	6 分類した付箋をグループで共有し、考えを伝え合う。 ・大名への政策について調べる。 ・民衆への政策について調べる。 ・外国とのかかわりについて調べる。	○友達と考えを伝え合うことで、自分の予想に自信をもったり、考えを広げたりできるようにする。	
5 分	7 単元の学習計画を確認する。	○分類した項目を確認して、児童が学習計画について見通しをもてるようにする。	

<資料>

教室掲示

戦国の世を支配するためのしくみ

	織田 信長 	豊臣 秀吉 	
他の大名を支配するしくみ	○有力な大名をたおす（鉄砲の活用） ○室町幕府を滅ぼす 武力による支配	○朝廷から関白の位をもらう ○全国の名を従える 天下統一をはたす	
民衆を支配するしくみ	○堺などの商業地を支配する ○楽市・楽座 商業・工業を盛んにする	○検地を行う ○刀狩令を出す 身分の区別による支配	
外国との関わり	○南蛮貿易を行う ○キリスト教を保護する 外国を受け入れる	○南蛮貿易を行う ○キリスト教は・・・ ○朝鮮出兵を行う（失敗） 外国も支配したい	

掲示資料

① 織田政権、豊臣政権、江戸幕府の年数別棒グラフ

